

2009年4月1日

2009年4月1日 社員に対する社長就任挨拶（要旨）

社長 廣瀬 博

米倉会長は、社長就任の間、グローバルカンパニーとしての成長を目指す3度にわたる中期経営計画を果敢に推進してきた。この間の変化は、「成長」、「グローバル化」、「CSR経営の推進」の3つに集約できるが、目指す方向は、これからも不変である。

住友化学は、95年の歴史において、幾多の困難や転換期に直面してきた。諸先輩は、「信用を重んじ、浮利に走らず、時勢の変遷に応じて積極的に事業の展開を図る」という住友の事業精神に則り、「変革期に対応した事業体質」を創りあげてきた。当社は、本年1月、「住友化学の経営理念」を定めたが、厳しい時期にあつてこそ、企業経営の原点を忘れず、世界全社員が経営理念を共有し、実践に移してほしい。

サウジアラビアにおける石油精製・石油化学統合コンビナート事業計画（「ラービグ計画」）や、IT関連事業、農業ビジネス、ヘルスケア事業、高分子有機EL、エネルギー関連部材など、住友化学は、豊かな社会の実現のために重要で、夢のあるビジネスや技術を数多く有している。足元の業況は厳しくとも、未来は洋々としている。

本年は、この3月に立ち上げた「経営戦略グループ」を核に、社会変化や経済情勢、資源、エネルギー、食糧、環境問題、消費者動向や技術革新の方向性について分析した上で、長期ビジョンを描くとともに、その達成に向けた次期中期経営計画を策定していく。

危機の後をしっかりと見据えつつ、不撓不屈の精神で今の逆境に対処しなければならない。次の100年に向けた新たな住友化学の創生の時期に、世界全社員が団結し最善を尽くせば、難局を乗り切ることができる。将来に大きな夢と希望をもち、技術を基盤とした新しい価値の創造に、ともに挑戦していこう。

以上